

# 災害時要援護者避難支援制度の取組事例

## 1 支援組織概要

組織名：宮前平グリーンハイツ自治会（宮前区） 世帯数：約1,000世帯

## 2 取組概要

55号棟からなる大規模な団地であり、住民の高齢化が進む中、要援護者となる方も増加してきています。災害時要援護者避難支援制度の名簿に登録された方への支援は、自治会、自主防災組織、民生委員・児童委員が連携して活動しており、発災時には各棟の各階段ごとにあらかじめ決められた避難体制により安否確認、避難支援を行うことにしています。

## 3 取組経過等

宮前平グリーンハイツは、昭和46年に第1期入居が始まり、昭和57年に自主防災組織が結成されました。自主防災組織の取組として、災害に対応する役割別の班を設け、要援護者に対しては発災時の避難誘導などを行うこととしていましたので、災害時要援護者避難支援制度の導入も比較的滞りなく行うことができました。導入後は、より効果的な運用ができるように支援者で検討し、改善を行っています。

## 4 取組詳細

1 登録者数・・・20名

2 支援者・・・登録者一人に対して概ね2名

\*各棟の各階段ごとに、近くの方や自主防災組織の避難部の方を支援者としています。

### 3 取組方法

#### <初回訪問>

- ・区役所から名簿を受領後、民生委員から名簿登録者の方に初回訪問の連絡をとっています。
- ・実際に訪問する前に、自治会や自主防災組織の役員に同行するよう声掛けをし、可能であれば3名で訪問します。
- ・訪問時は、本人の様子（申し込まれた理由、望まれる支援、日ごろの状況など）を聞き取り、個票にその内容を記入しています。
- ・家具の転倒防止対策の実施状況を確認し、対策のアドバイスや場合によっては手伝います。
- ・名簿登録者の状況を記載した個票を複写し、名簿登録者本人、支援者、町内会の3者で共有することとしています。

#### <平常時の対応>

- ・民生委員が日ごろから名簿登録者に対して電話で状況把握を行うなど、見守りを行っています。
- ・毎年の自主防災組織主催の防災訓練（約700人参加）の中で、避難班が要援護者の安否確認、点呼訓練を行い、発災時の要援護者支援の対応を確認しています。

### <災害発生時の対応>

- ・大きな揺れを感じた場合、まずは支援者、名簿登録者ともに自分の身の安全確保を図っていただきます。
- ・支援者は、安全が確認できた段階で、あらかじめ定められた近所の要援護者の安否確認に向かいます。負傷している場合は、周りの方の協力を得ながら、できる範囲で救出・救助を行います。
- ・基本的には自主防災組織の避難部の方が支援者として行動を行うこととしていますが、自治会全体として、避難部以外の方も協力していただくようお願いしています。

## 5 他団体との連携

### <民生委員、管理組合>

- ・自治会、自主防災組織とともに要援護者支援の一翼を担っており、初回訪問から日ごろの見守り活動等を行っていただいております。

## 6 工夫している点

- ・敬老の日に自治会の福祉部とボランティア団体（けやき会）で協力して、77歳以上の高齢者に記念品を配っていますが、名簿登録者を中心に身体状態などを確認して情報を集めています。
- ・桜祭り、夏祭り、もちつき大会などの地域の行事を行い、顔の見える関係を作っておくことで日ごろから要援護者の情報収集、いざという時の支援活動への協力意識の向上を図っています。

## 7 取組成果

- ・日ごろから、自治会、自主防災組織、民生委員、管理組合で情報交換を密に行っているため、支援者間の情報共有及び協力が十分に図られています。
- ・地域でのイベントを昔から継続的に行っており、顔の見える関係になっているため、支援者以外の住民も要援護者が居住している住居を把握していることが多く、状況の変化があった場合にすぐに情報が集まるようになっています。

## 8 その他



<防災訓練、自治会イベントの様子>